

少年時代の
遠い記憶―

私の田舎には
昔から休園
している
小さな動物園が
ありました

地元の大人は
不気味がつて誰も
近寄りたがらない
場所なのですが―

好奇心が強かった私は
夏休みの夜中に
一人で
潜り込んだ事
があるのです―

真夜中に人知れず
行われている―

調教中

見てしまったんです…

狂気の宴を…

そっぴー

おっ♡

あっ♡

ほっ♡

ほっ♡

ほっ♡

ほっ♡

ほっ♡

お♡

ほっ♡

はあ

あっ♡

やあっ…♡

あっ♡

ほっ♡

あっ♡

ほっ♡

ほっ…♡

あ♡

もっ…

もっやめさ…♡

いや♡

ほっ♡

ほっ♡

ほっ♡

ほっ♡

ほっ♡



被り物をした
怪しい男達が
嫌がる裸の女性達を
奴隷のように扱いながら

代わる代わる
乱暴に
犯していく...

しつかり締めまり
よくしろよっ
メス豚共っ

やっ

叩いちや
やあつ...

オラッ

オラッ

あっ

はあ

おお

その光景は
とても奇妙で
いやらしくて...



狭い部屋に所狭しと
うごめいて

それはまるで
ひとつの生き物の
様でした...

あ

ん

あ

あん

おお

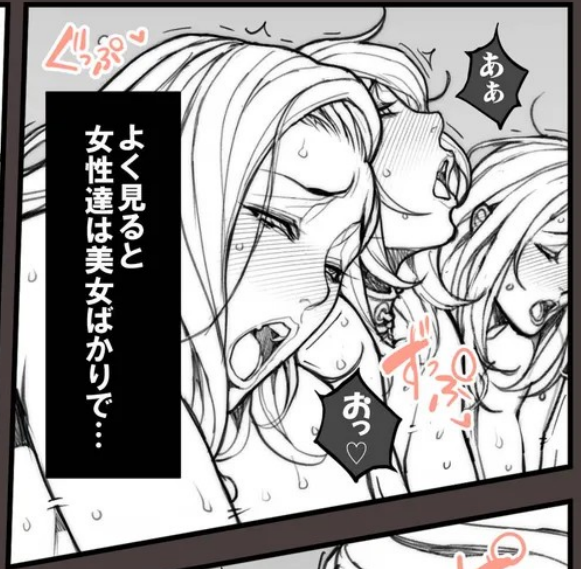
はあ

ああ

お



拘束された体を
必死にくねらせ
ながら

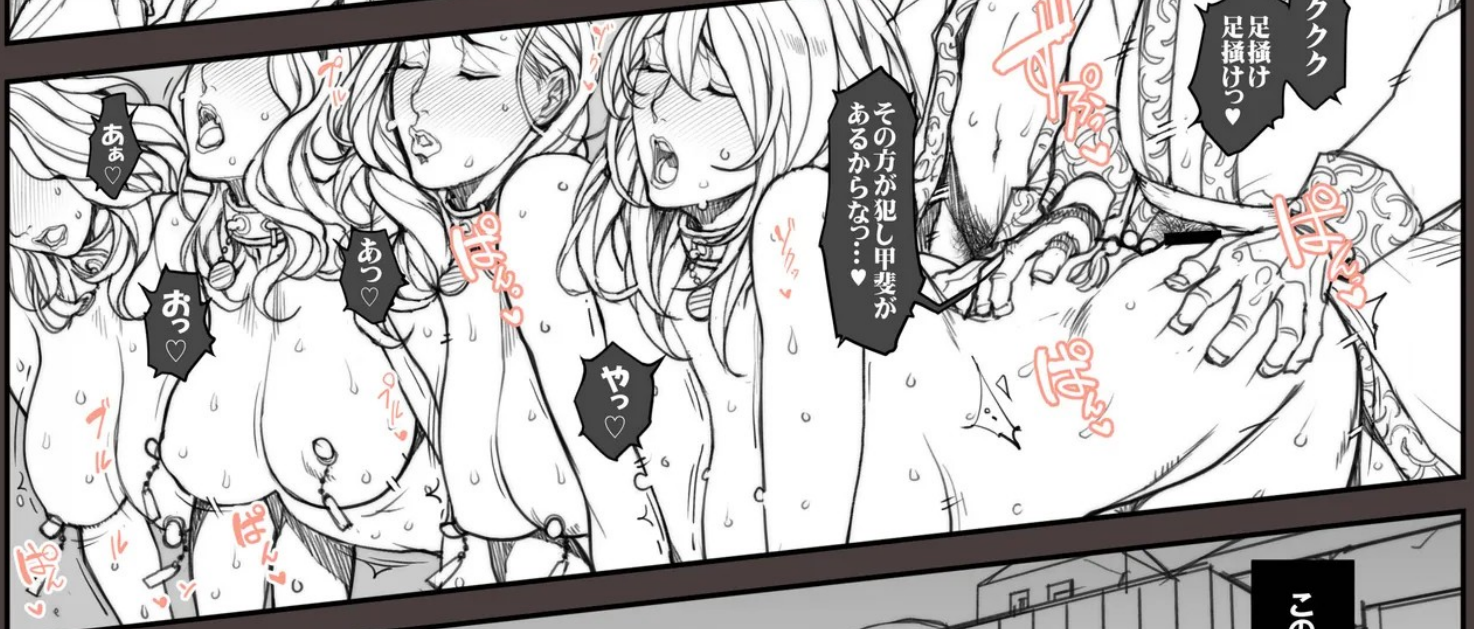


よく見ると
女性達は美女ばかりで…



快感をこらえて
いるような—

んんん…♡



その方が犯し甲斐が
あるからなつ…♡

ククク
足掻け
足掻け♡



この集まりは何なのか？

地元では見たことがない
この美女達は
怪しい男達に無理矢理
連れてこられた
のだろうか…？

幼かった私には
到底計り知れない
ことでした…



だっ...
だめよ♡

何度も何度も
後ろから
激しく突かれ

無理矢理に
絶頂させられる
女達—

そのたびに
館内に響き渡る
激しい喘ぎ声—

またっ...

また
イっちゃう...♡

あっ♡
ああっ♡

はあ

おおおお♡

おっ♡

んっ♡



その度に
激しく突かれ—

やっ♡

あ♡

やあっ♡

激しく
しなぐ♡



中には必死に
許しを請う者も—

おっ...
お願いっ...♡

もう
許さじや♡

あっ♡

ごめんさっ♡

もう限界
なのあっ♡



あっ♡

おっ♡

おお♡

はっ♡

おおおお♡



抗うほど
男達の腰使いは
荒々しくなり

あっ♡
ふぉ♡

やあっ♡
ん♡

あっ♡

もうだめエ♡

だめっ♡

おおっ♡

おおんっ♡

あっ♡
うん♡
うん♡
うん♡



その度に女達は
激しく痙攣し腰を上下に
ビクつかせて……

お♡
あっ♡
うっ♡

あっ♡

お♡

おおああお…♡

少年だった私は、その姿に
激しく興奮していました……



奥深くまで
挿し込まれた
パンパンのちんぽから

あ♡
だめエ♡
もう
出しちゃ…♡

あっ♡



執拗にザーメンを
注ぎ込むのです

あっ♡

あっ♡

おおおおっ♡

あっ♡



身も心も
蹂躪されて
屈服させられた
彼女達はー

彼女達も
激しく犯され続ける
うちにある変化が…

あ…あ
また…あ
中で大きくっ

はぁあ
すこいっ…

あ

あ

おっ

あ

ん

は

は

は

お

は

お

お

次第に

自分から…

仮面の
男達を

求める
ように…

これも女の
サガなのか…

よしよし…
だいたい顔
するようにな
つてきた
じゃねえか…

犯され続けるうちに
メスとしての本能が
男達を自分の「主人」と
認めたのか

次第に恍惚とした
笑みを見せる
ように…



お

は

ん

は

ん

ん

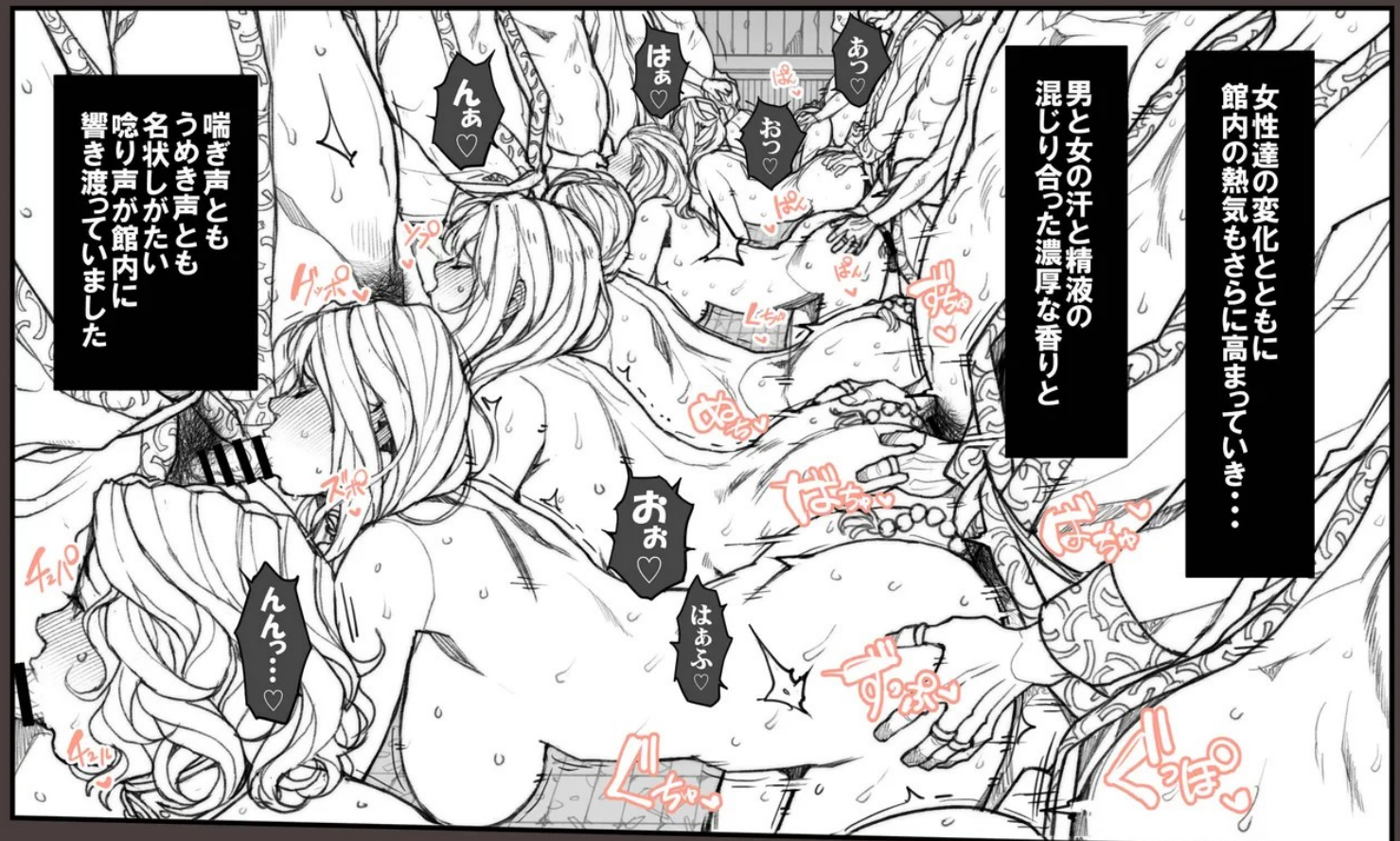
は

は

女性達の变化とともに
館内の熱気もさらに高まっていき……

男と女の汗と精液の
混じり合った濃厚な香りと

喘ぎ声とも
うめき声とも
名状しがたい
唸り声が館内に
響き渡っていました



いいか……
お前達はただの
メスたち

こうして男に犯される
ために生まれた
生き物なんだぞ……

それをしつかり
自覚しろよ……



ああ
おっ

またっ
激し……

おんっ

自分の立場を
忘れないように
しつかり体に刻み込んで
やるからな……



